「教会の３ぼさつ？」

時折何かのきっかけで思い出す言葉があります。先日、結婚式の準備のため「結婚簿」を見ていました。そこにはこれまで教会で聖婚式もしくは結婚式を挙げられた方々の記録が残されておりました。結婚簿は見開きで左側と右側の頁に同じ内容を書きます。新郎新婦の名前、生年月日、所属教会、現住所、両親の名前、立会人の名前、司式者の名前、式場が記され、式の中で新郎新婦、立会人、司式者が捺印をします。左側が教会控え、右側が挙式を挙げられた夫婦に渡されます。

結婚式の中で「宣言」に並び結婚簿への署名捺印は重要です。

思い出す言葉というのは、今は天国に旅立たれたアントニオ影山博美司祭がよく私に話していたことです。「越山司祭、教会の３ぼさつって知ってる？」でした。「はて？なんのことでしょうか？」と応えると影山司祭は笑いながら「それはね、教籍簿、信徒異動索引簿、結婚簿の３つ」だよと教えてくださいました。「菩薩」ではなく「簿冊」でした。これは影山司祭がコルネリオ田崎安男主教から教えて頂いたそうで教会は、特に教役者はこの「3 簿冊」をいつも大切に維持管理しなければならないという教えだったのです。教籍簿は、信徒のすべての信仰生活の記録が記されており、信徒異動索引簿には「誕生日」「受洗日」「堅信日」「結婚」「逝去」「異動入籍」「異動送籍」などが項目ごとに記されています。そして結婚簿は前述の通りです。教籍簿や結婚簿は英国教会では「戸籍謄本」と同じです。それぐらい大変重要なものですから、むやみやたらに開示してはいけずに大切に保管しなければならないということを後輩の聖職に伝えるために田崎主教から影山司祭へ、そして私へと伝えられたのだと思います。各教会には現在使用中の簿冊から過去の簿冊まで数冊あります。当然に古い簿は紙がボロボロになって劣化が進んできており、電子媒体で保存していかなければならないと思いつつなかなかその作業が進んでいません。また、よく教会に問い合わせがあるのは、「今は教会に通っていないのだが昔若い頃教会に行っていた記憶があるが記録は残っているか」というものです。教籍簿や結婚簿を調べるときに異動索引簿をまず見ると便利なので調べてみると確かに数十年前に洗礼や結婚式を挙げられた事実を簿冊を通して確認することが出来ます。

その事をご本人やご家族、ご親戚にお伝えすると大変喜んでくださいます。そんな時はいつも教会の３簿冊の話を思い出すのです。

しかし、教籍簿や結婚簿、異動索引簿も未記入な部分が結構あるのです。自戒を込めて言うならば教役者は派遣された教会の簿冊の管理をしっかりやって歴史を紡いでいくことを本当に大切にしていかなければならないと思います。そして、古くなって印字も薄くなってしまっている簿冊の電子化も少しずつ進めていきます。私たちの人生の中での節目節目を大切に記録し続ける教会の３簿冊に空欄がないようにと願いますが、残念ながら記録されていない部分は想像力を働かせてこの方はどのような生涯を送られたのか、また今はどう生活されているのかに思いをはせることも大切にしたいです。そして、何よりも人間の力では限界がありますが、天におられる私たちの神さまは私たち一人一人の大切な人生をそしてその生きてきた証をしっかりと懐に抱いてくださっていることを信じて私自身に与えられたつとめを果たして参りたいと思います。（司祭　越山哲也）